



「佐世保市市民栄誉賞表彰式」で光武市長から激励を受ける第1号受賞者の城島健司選手

広報  
No.651

# させぼ



広報させぼ 編集長  
「キューちゃん」

特集 **いつまでも生き生きと  
健康生活** 2~5p

今月の主な内容

- 市民栄誉賞、市県民税・国保税の申告など 6~9p
- 市民の広場 10~11p
- 施設だより、イベント 12~13p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 22~23p
- 九じろうの取材日記 24p



PUBLIC RELATIONS SASEBO

## 九じろうの 取材日記

障害者の日記念事業  
ハートフルコンサート



市内の障害者施設や作業所などに通所する人たちの合唱「世界に一つだけの花」では、会場の聴衆も一緒に振りに参加しました

12月3日(9日)の「障害者週間」にちなみ、昨年12月12日、「ハートフルコンサート」が佐世保市民会館で開催されました。  
障害者による合唱や踊りのほか、障害のある人となし人による共演もありました。出演者は、昨年9月ごろからそれぞれに練習を重ね、その成果を披露しました。



音楽を通して心の交流  
知的障害者バンド「コン・アモーレ」(写真左)は、市内の通所施設に通う9人で結成された打楽器中心のバンドで、シンセサイザー担当の2人以外は、楽譜無しでリズムなどを体で覚えて演奏します。清水中学校吹奏楽部と合同演奏した曲の一つ「サウンド・オブ・ミュージック」は、演奏時間が10分間もあり、演奏中に打楽器は休みの部分があるため、楽器担当のメンバーにとっては、音を出すタイミングを覚えるのに苦労した曲です。バスタード担当の有田康子さんは、「この曲の演奏は特に難しいですが、メロディーがきれいで、わたしの一番好きな曲です」と笑顔で話しました。

共演した清水中学校3年生の原田三央さん(写真右下中央)、中島純平さん(同右)、住吉大地さん(同左)は、「コン・アモーレ」の皆さんは音楽を楽しく表現するので、一緒に演奏するわたしたちも気持ちよく演奏できました。練習中に



本番前に会場別室でハンドベルの練習をする佐世保養護学校高等部とホーリーベルズの皆さん

一緒に演奏する機会があるといいですね」と話しました。  
音楽を心から楽しむコン・アモーレ、清水中学校吹奏楽部のメンバーと、調和のとれた美しい演奏に対して、会場からは大きく温かい拍手が送られました。  
また、佐世保養護学校高等部の選択音楽専攻の生徒14人は、市内のハンドベルサークル「ホーリーベルズ」とハンドベルで共演しました。ハンドベルは、お互いの息を合わせることが最も難しく、か



は、打楽器担当の皆さんに基礎的なたたき方を教えるなどの交流もできました。今後、障害者の方々との

つ最も大切なため、本番前の練習でも入念に音合わせをしました。  
佐世保養護学校高等部3年生の萩田美奈子さんは、「ホーリーベルズの皆さんの音はとてもきれいで、一緒に演奏することが楽しいです。本番も楽しんで演奏します」とコンサートに臨みました。  
ホーリーベルズの皆さんも、「佐世保養護学校の生徒の皆さんと一緒に演奏するときは、気分をとてモリラックスさせてもらえます」と話しました。  
聴衆は、ハンドベルの優しく美しい音色にすっかり魅了されていたようでした。  
「コンサートは、「Heart to Heart」というテーマがあり、音楽を通して参加者同士が心を通わせる場になったようです。」



編集長から「一言」

高齢者が集う趣味のサークルに参加して感じたことは、女性が元気なこと。男性は家庭で「ウン」と「ハー」しか言わないとか、男性は仕事に追われ、趣味を見つける時間が持てなかったのか。定年に備えて仕事以外の生きがいを見つけておくことも大事なようです。(一)